

研究論文

スペイン駐在英国大使キーンの書簡

ーリスボン大地震とスペイン宮廷

第一節 ポルトガル駐在大使としてのキーン

第二節 スペインにおける英国大使キーンとリスボン大地震

第三節 キーンの震災通信と英国宮廷の対応

第一節 ポルトガル駐在大使としてのキーン

イギリスの著名な外交官ベンジャミン・キーンは、一七四五年から一七四九年までポルトガル駐在英國大使としてリスボンに在留した。専制君主ジョアン五世の晩年、リスボン大地震の六年前である。一六九七年イングランド中部の港町キングス・リンで市長の子として生まれたキーンは、ケンブリッジとライデンで法学を修めたのち、ホイッグ党の領袖ロバート・ウォルポールの愛顧を受け、一七二三年南海会社の代理人としてスペインに派遣された。おりしも南海泡沫事件によって世論が沸騰し、一七二一年政権の座に就いたウォルポールの手腕で收拾の段階に入ったのである。スペインにおけるキーンの使命はこうした政策の一環と思われるが、まもなくマドリッド駐在イギリス領事の兼務を命じられた。一七二七年回国で全権大使に栄進した彼は、翌々年セヴィリア条約の調印に携わって英西戦争の終結に貢献し、さらに中南米での密輸をめぐるスペインとイギリスの紛争を解決するため、一七三九年エル・パルド協定の成立に尽力する。しかし、スペインの強硬な態度に沸騰する与論に押され、同年十月イギリス政府は宣戦を布告し、大使キーンを本国に召還した。^①

帰国後の彼はエッセクス選出の国会議員、商務省の幹部、年金局長官に就任したものの、内政の諸問題や議會

^① Richard Lodge, Introduction, in Benjamin Keen, *The Private Correspondance*, 1933, Cambridge, pp. xi-xii.

での活動に熱意を抱くことはなかった。他方イングランドの名門貴族、チャールズ・コンプトンはポルトガル駐在大使の職務にあったが、帰国して年金局長官などに就任する願望を抱いていた。こうしてホイッグ党の有力政治家、外務南方省長官ニューキャッスル公爵のもとで人事は進められ、やがて幸運にもキーンはポルトガル駐在大使の地位を得た。スペインから退去する旅路で、キーンはこの国の情緒に心惹かれ、親密な友人アブラハム・カストレスが一七四二年から領事としてリスボンに駐在するのである。かつてカストレスはマドリッド駐在領事として大使キーンを補佐し、セヴィリア条約の締結に関与した。^①以後両者の友誼は終生続き、本節の主要な史料『ベンジャミン・キーン私的書簡集』では、カストレス宛通信が根幹となって収録の過半を占める。一七四五年五月ポルトガル駐在大使に任命された喜びを、キーンはつぎのように伝えた。

ベンジャミン・キーンの手簡 その一

親愛なるカストレス殿

一七四五年五月七日 スプリング・ガーデン

拝啓。ついに念願を叶えたと、さきの書簡でそなたに知らせましたが、海外へ行幸される前日、この木曜日に全権大使として国王陛下から信任状授与の儀式を賜り、日曜日には(フデリック)王太子殿下も同様の式事を催されました。私への拝命を殿下に奏上され、歓送の儀を用意されたことを、席上セリエール閣下に

^① *Ibid.*, pp. xii-xiii.

感謝を申し上げましたが、閣下のご厚意は終生心に刻まれるでしょう。人類への奉仕と貢献を果たすべく、ため全力を尽さねばなりません。(中略)

親愛なる友よ！コンプトン様が邸宅と必要な家具すべてを、私のため欣然として譲渡されたのですね。三つのベッドをそちらへ運ばせます。大型のグマスク織ベッド、スペインで用いた小型のグマスク織ベッド、そして旅行用のベッドです。グマスク織ベッドも相応の価格では処分できず、任地へ携えて行きます。親身な助言をすべて大切にします。私のためコンプトン様の家財をできるだけ安く買い取り、ご自身の四輪馬車を改造されたのです。(中略)

取引や購入などリスボンで私に必要なと思われる事柄を、大使の名義と権限で行ってください。なお、ロンドンに留まる間、定期便の度毎に便りを送るつもりで、バケット船が出港することに、そなたも書簡を寄せてください。

敬具。①

一七四〇年大陸ではマリア・テレジアの神聖ローマ皇帝即位をめぐって、でオーストリア継承戦争が勃発し、イギリスとオランダが女帝を支援する一方、プロシヤ、フランス、スペインが別の皇帝を擁立して攻撃を続けた。その五年後イギリスの調停によって講和への気運が芽生え、フランスと緊密に連帯したスペイン国王が逝去した。

① Benjamin Keene, *The Private Correspondance*, 1933, Cambridge, pp.60-62.

後継者フェルディナンド六世の王妃は、ポルトガルの王女バルバラである。こうしてキーンがリスボンへの派遣を任ぜられたのは、断絶したスペインとの友好を、ポルトガルを介して回復する好機が、イギリスに訪れた時期である。かつてマドリッドに駐在し、スペイン宮廷に篤く信頼される彼こそ、イベリア半島の両国宮廷とバッキンガムを繋ぐ重要な使命に最適であると期待された。①

前任者コンプトン公爵の屋敷を領事カストレスの尽力によって譲り受けたキーンにとって、ポルトガルでの日常生活はスペインにおけるよりも一層快適であった。リスボンの屋敷は公邸として用いられ、在留イギリス人の礼拝のため教会も付設されていたが、近郊に設けた別荘で寛ぐ余裕も得られた。ケンブリッジIIピーターズ・カレッジの教官、実弟のエドムンド・キーン神父に宛てた書簡に、そうした彼の居常が誌される。

ベンジャミン・キーンの手簡 その二

エドムンド・キーン神父様

一七四八年十月九日 リスボン

親愛なる弟よ。

多々お手紙を頂くことを、感謝も返書もすべきと気にしつつ、そなたの精励や身内の消息についていつも喜んで読み入っています。とくに返答も求められず、そちらに依頼する事柄もないので、失礼を重ねてきま

① Lodge, *op.cit.*, p.xiii.

した。(中略)

こちらでは都塵から離れた地に立派で快適な邸宅に住んでいます。ここには三百人の会衆を容れる礼拝堂が付設され、(英国商館教会司祭) ニコライ神父をはじめ、数ヶ月代りを勤めたパーカー神父も説教壇に立つのを誇りとされます。ニューバークの別宅と同じような山荘を、王都から四レガ離れたシントラに持ち、二ヶ月ほど暮しました。これまでに得られたもつとも素晴らしい所有物で、素朴な生活の便宜もすべて備えています。池などではなく、大洋を眺望できるのです。故国での坂道に代って、ここには山稜が連なり、下方の家々がしばしば雲や霞に覆われるため、頂上に聳えるムーア人の城砦といくつかの修道院は、あたかも天空に築かれたように映じます。この一帯の由緒と名称も浪漫に満ちて、ベナ・ベルデ(緑の岸壁)と呼ばれ、アジア征服に尽くした一族が、褒賞として国王から授けられました。豪壮な軍人で、第四代インド副王であった彼は、異教徒を心服させて公平無私であり、邸宅には一本の果樹もなかったようです。さらに調べてみると、この人物ドン・ジョン・デ・カストロは、インドで取得した土地を築城するため、頬ひげを一万ポンドの抵当に入れ、防備を固めました。①

この書簡に示されとおり、キーンは名勝シントラをイギリスに紹介したひとりとされる。その六十年後詩人バイロンはヨーロッパ遍歴に旅立ち、イベリア半島を訪れた。シントラの絶景と古蹟は、風光と初期の代表作『チ

① Keene, *op.cit.*, pp.60-62.

ヤイルド・ハロルドの巡礼』第一巻で朗々と歌われる。バイロンの詩作は明治の文学者に愛読され、土井晩翠はこの大作の全訳を成就した。

(第十八歌)

見よ！シントラの光栄のエデン！

山と谷との錯雑の迷路をなして横わる。

あゝあゝ！ 何等の腕がよく筆を導き、いにしへに

楽園の戸を驚ける世界の前に開きたる

詩人の述べし言葉にまさり、

人間の眼を驚かす其絶妙の影のうへ

半なまはを逐ううて進み得む？

(第二十歌)

やかたしづかに羊腸ようちやうの山路をめぐり、

途すがら足をとどめて目を放て、

更に巖の高きより新あらたの風致ながめ見よ、

かくて『聖母のしろしめす愛うけいの宿』に身をいこへ！

つ、ましやかの山僧は其いささかの宝物を

示し、旅ゆく人々に昔の事を説きまかす。

神の非礼のともがらの罰うけし場はこゝとこそ、

又見よ、かなた洞窟の中にすみたり難行と

苦行をつみて天上の報得るべくホノリアス。

①

全権大使としてリスボンへ着任したキーンは、多くの在留イギリス人、とくに英国商館の構成員と親交を結んだ。十五世紀の同業組合を始原とする英国商館は、ポルトガルに在留するイギリス人の商易と連帯を促進する組織であつて、リスボン、ポルト、マデイラに置かれた。各地の領事が商館の館長を兼ねて、教会司祭と専属の医官をも擁し、大使キーンはこれらすべてを統率したのである。相当の規模で取引し、社会的な信用を有することが会員の資格とされ、イングランド銀行頭取のメイリック・ビュレルや南海会社副社長のダイヤモンド業者・ジョン・プリストウなど、有力な実業家も構成員として記録される。また、詳細な被災記録を後世に遺したチェイズやブラドックなど多くの貿易商が加入し、数世代にわたつてポルトガルに居住する者もあつた。ポルトの英国商館には豪華な集会室とクリケットなどの運動場を備え、リスボンでは親睦のため隔週ごとに水辺で舞踏会も開催された。①

① バイロン著、土井晩翠訳『チャイルド・ハロルドの巡礼』二松堂書店。一九二四年、二三―二五頁。

① L. M. E. Shaw, *The Anglo-Portuguese Alliance and The English Merchants in Portugal, 1654-1810*, pp.62-64, 71.

王命を奉じる大使や領事は、活動的な貿易商と立場の相違からときに摩擦を生じたが、寛厚な人柄と豊かな心情によつてキーンはとくに敬愛された。以後久しく交誼を続けたのは、指導的な貿易商のウィリアム・モーマンやダヴィッド・ブレイ、司祭ウィリアムソンと医家カントレイ、さらにはコペンダール夫妻、ヘイケ夫妻、ペロセン夫妻、ストウト夫妻であつて、これらの家長は英国商館の幹部であり、夫人たちは社交界を活気づける才媛であつた。②

とはいえ、深い愛着を感じるポルトガルにながく居住することを、イギリスの国策はキーンに許さなかつた。アーヘンの講和条約によつてオーストリア継承戦争が終結し、断絶したスペインとの関係も正常に復する。しかし、ナポリ王国とバルマ公国を衛星国としてフランスの勢力が強大であり、これに抗するため反ブルボン陣営の再建が急務となつた。こうして外交政策の中核ニューキャッスル公爵は、フランスの介入を牽制し、スペインとの提携を緊密できるのは、キーンしかないと判断する。リスボン永住の願望も抱き、身体の不調も感じていたが、私情に流される彼ではなかつた。光栄にも国王の勅命を拝受し、祖国のため尽力する旨、一七四八年八月二八日ニューキャッスル公爵宛書簡で心えた。③ 快適なポルトガルの生活は二年余に止まり、多くの在留イギリス人に見送られ、なお隣国から文通を重ねたが、以後彼らとふたたび顔を合わせることはなかつた。

② Lodge, *op.cit.*, pp.xiv-xv.

③ *ibid.*, pp. xiii-xv.

ベンジャミン・キーンの書簡 その三

リスボン総領事および英国商館各位殿

一七四九年一月十三日 リスボン

謹白。

英西両王室の幸ある和解により畏れ多くも国王陛下が、スペイン宮廷へ派遣する使節として余輩を指名されたことを知りました。陛下の命令を早急に果たすべく、いま準備しております。

今回陛下から賜った信頼と任命がいかにも名誉であろうとも、ポルトガルの国土でイギリス国民の保全とわれらの特権の擁護に関与できた光栄を消し去るものではありません。幸運にもともに暮らした貴紳の方々は、公的な活動における秩序と規律、私的な生活における品位、調和、友愛、かつまた商業取引における精励および公正によって、ポルトガル人の尊重と尊敬的のとなり、彼らの事業や商議にも貢献されました。

そのように価値ある美德の正当な評価としてなお語るべきは、国王陛下に向けて皆様が絶えざる愛慕を抱かれること、王室を侵害するあらゆる企て、プロテスタントの伝統の遮断を試みるあらゆる人物を、皆様が忌避されることです。

こうした証左は行く先々でいつも誇り得るものであり、貴紳の方々との別離を痛恨の至りに感じさせます。ここに成就された全般的な繁栄が持続し強化されること、また栄光ある商館の皆様が福祉と幸福を享受され

ることを、心から祈念するに止めます。

敬具。①

第二節 スペインにおける英国大使キーンとリスボン大地震

一七五五年三月三十一日リスボン遷都五百年に因む新歌劇場の初日を、遙かマドリッドの空の下でキーネは待望んだ。その前日彼はスペインの王立歌劇場で、イタリアの有名なカストラート歌手、マンツォーリの来演に接したばかりである。マンツォーリはポルトガル国王からも招待され、まもなくリベイラ王宮の舞台に立つはずであった。幸あるリスボンをキーンが離れて、早くも五年の歳月が流れていた。この間に彼はスペインの政治的な自立と英国との友好に尽力し、一七五〇年に植民地での抗争を緩和する通商条約の締結、また一七五二年にはスペインとオーストリアの連携の強化、アラランジュエズ条約の調印を成功させた。②

他方リスボンでは総領事カステルスが、キーンの後任として全権大使に昇格し、両者の間で頻繁に個人的な書簡が交わされた。カステルス宛キーンの手簡は毎週あるいは隔週に執筆され、一七五五年の発送分のみでも三七通が保存される。

① Keene, *op.cit.*, pp.91-92.

② Lodge, *op.cit.*, pp.xv-xvi.

ベンジャミン・キーンの書簡 その四

親愛なるカストレス殿

一七五五年三月三十一日、マドリッド

筆跡がより鮮明であることを念じつつ、再度筆を執ります。粗悪な用箋のため、先回の便りは読み難いものでした。その後三月二二日に頂いたお手紙には、(ポルトガル駐在スペイン大使)ペラルダ殿の書簡を添付頂きました。書簡の要点は戦争と平和に関する事柄で、部分的にはすでに応答致しました。戦争か平和か、いずれに傾きかを神ならぬ身で予測できません。これまで(ロンドンの大実業家)ビュレルの見方が的を得ていました。こちらの君主はそちらの君主ほど平和的でないものの、充分に情報を示されます。我らふたりはそれぞれ然るべき立場にいるようです。

ロンドンからの郵便網で若い友人が伝えるところでは、本国の内情はあまり快いものではありません。名指しするまでもなく、ひとりのお方が全権を握っています。国王の権限や要望の及ばぬ領域で、できれば同じように支配したい一心で、他の方々もこれに強く反発する現状です。

今期の議会が終了したのち、おそらく一方が失墜し、その結果他方が凱歌を挙げるでしょう。リオ・デ・ジャネイロからの船便で、最近そなたが知り得た西インド情報を、どうかお知らせください。

ここへは土曜日に帰りました。昨日(アイルランドの使節)ウオール殿と宮廷および歌劇場で一緒になり、水曜日までふたりのため種々の歓待が用意されています。(カストラート歌手)マンツォーリが来演し、『エ

リージ』を聞かせてくれました。以前より彼は頑張っているようで、この曲が緊張させたと思います。そちらの大劇場は本日^{こぼれ}柿落しですね。そなたの知己はみなお元氣のようで、お便りのなかで(ポルトガル駐在スペイン大使)ペラルダ公爵についての記述も嬉しく拝読しました。公爵が体調を悪くされると、友人たちの不安が募ります。ご本人の気持は判りませんが、私もそのひとりです。カデイスへ赴いた(貿易商)ブリにも手紙を書くつもりですが、彼に委託する事柄や取引を頼む事物はなにもありません。ながくここに滞在して、今後どうなるか、行く末は測り知れません。

礼儀を重んじる(私の秘書官)クルフト殿は、お手紙に添えられた彼への挨拶を光栄に感じ、そなたに感謝しています。誠実な彼は多少浮ついたところもありますが、必要な任務は立派に果たし、私の生活を乱しはしません。そなたにそなたに忠実である従僕から、深厚なる敬意を捧げます。 敬具。①

一七五五年十一月一日、万聖節の午前十一時頃マドリッド郊外のエスコウリアルで、キーンは三分間地震を感じた。近のエスコウリアル王宮では震動がより強く、若干の建物が破壊され、国王フェルナンド六世と王妃バルバラは屋外に避難する。スペイン南部のアンダルシア地方は強震に襲われ、津波も伴ってカデイス、セヴィリア、グラナダでは甚大な被害に至った。これらスペインの震災についても、近年膨大な記録の集積と刊行が推進され、マドリッド一帯の様相を誌す著者不詳のある古文書によれば、宮廷では防災の祈禱が営まれ、王宮周辺で

死亡する者もあつたとされる。

十一月一日十時過ぎ王都マドリッドの地底に全般的な衝撃が勃発し、あらゆる家屋と多くの大建造物に八分間強震を惹き起した。突然の異変にすべての住民、とくに砂地の人々が驚愕し、揺れ止まぬなかで寺院や自宅から急遽脱出して、広い空地や辺鄙な街路へ震えつつ避難した。大きな被害には至らないものの、カプチン会修道院の聖堂において正面先端の十字架が前廊に落下し、王宮にある王立病院では子どもふたりの生命が奪われた。それ以外にも若干の建物が破壊されて、それぞれに修復を必要とし、サン・カエタノ教会も相当の被害を受けた。大勢の信者が寺院から脱出したので、不幸が倍加する恐れもあった。しかし、アトーシヤの聖母マリアが聖都の慈母かつ守護として、当地の全員を護り給い、万能の御業によって襲いかかる惨劇を防禦された。エスコリアル王宮でもサン・イルデフォンソ宮と同じく短時間緩やかな震動が発生し、その夜王宮に戻られた国王陛下の勅命によって、恩寵を祈る公式の儀式が営まれた。

『一七一一一年十一月一日午前イベリア半島で発生した劇烈な地震の甚大な被害に
関する不幸な記録と惨事の描写』 ①

① Memoria fenebre, y descripcion tragica de los inauditos formidables estragos. in Agustín Ullas Vallina, *El Terremoto de Lisboa en Espana (testimonios ineditos)*. Brenes, 2010. p.94.

やがてポルトガルより十一月四日付の至急便がエスコウリアル王宮に届き、地震と大火によるリスボンの凄惨な震災と、スペイン大使ベララダ公爵の遭難が衝撃を与えた。ポルトガル国王の一家は難を免れ、王妃であるマリアナ・ヴィクトリア、ほかならぬスペイン国王フェルナンド六世の実妹から直筆で同月八日付書簡も届けられた。このためフェルナンド六世と宰相リチャード・ウォールは物資と資金の支援を決断し、枢密院議員カステイラを救援の総指揮を命じた。他方国内のアンダルシア地方でも激しい地震と津波の襲われ、スペイン王権はそれらの各地の状況や被害を調査すべく、十一月八日各地に回状を送付した。②

エスコウリアルでリスボンからの至急便に接したキーンは、把握した情報をただちに英国宮廷に伝達した。しかし、彼が得た情報のなかに、カステルスからの急報も、英国商館からの報告もなかった。親友の安否に深い危惧を抱きながら、十一月十日震災後初めて彼はリスボンへ書簡を綴った。

ベンジャミン・キーンの手簡 その五

親愛なるカストレス殿

一七五五年十一月十日 マドリッド

拝啓。悲運なベララダ（スペイン大使）の逝去を悼みながら、ローマ教皇大使もゲヴァラ（ナポリ公使）

② Fernando Rodríguez de la Torre, Documentos en el Archivo Historico Nacional (Madrid) sobre el terremoto del 1 de noviembre de 1755. in *Cuad. diecioch.*, junio, 2005. pp.85-87.

もバチイ（フランス大使）もそなたについては言及されないので、知らせがないことこそ無事である証しと望みを懸けています。地震には持ち堪えた建物も、火焔で焼尽したと聞きますが、そなたの公邸は安全な地点に位置すると思います。ご自身の安否について私を安堵させる使りが近々頂けるものと信じます。無惨にも我らの同胞も、数多く死と破滅に陥ったとの報知がこちらに届くのを、危惧しています。スペイン国王陛下はみずから凄惨な災厄に襲われたかのように、沈痛なご様子です。運びうる多額の現金を託して、連日使者を派遣しつつ、国王陛下はご令妹（ポルトガル王妃）への親書で、用意できるすべてを急送すると仰せられました。国境に置かれた各税関はすべての生活物資を無料で通過させ、そなたの要請を受ければ、バダホースの税関所長からも發送する手筈です。悲運なベララダの逝去を陛下を哀悼され、彼の子息に貴族としての年金三千クラウンを賦与されました。暇に浮ぶは、自宅を焼失した人々をそなたが迎え入れ、彼らのため庭園にテント小屋を建ててる情景です。一言で語れば、あの日に体験され、いまなお続くあらゆる恐怖に、己も襲われたら、と想像するのです。

リスボンでの発生から半時間弱ののち、エスコウリアルで私は震動を感じました。三分間続きましたが、被害はありません。マドリッドではより強烈であったものの、僅かな実害に止まりました。カルタゲネ、マラガ、アリカンテについては微震にすぎず、カタルーナでは平常どおりでした。ジブラルタルは被害を受けたと聞きます。カデイズでは地震の約一時間後高潮が押し寄せ、被災の様相は不明ですが、なんらかの犠牲が生じたようです。ポルトでは被害が軽少であり、ガリシアは難を免れたと思います。

正餐を私と共にしたウォール殿は、今夕送達吏を派遣すると申されます。そなたが気がかりで心配である、と書かざるを得ません。ウンハオ伯爵はご尊父とご令嬢を案じて、死ぬ想いでおられます。おふたりの音信が届かないので、スペイン国王陛下が閣僚に指示され、送達吏のひとりには伯爵ご一家の安否を確かめただけでも、ただちに帰国するはずです。伯爵の嗣子はマフラにおられ、無事であったと聞きます。讚美すべきほどの恵みがここにあります。

バケット便による公用便をそなたが送れぬ事態を考え、今回の震災については私がイギリスへできるだけ詳しく報告しました。そなたからの吉報を待ちつつ、親愛の情を送ります。敬具。①

第三節 キーンの震災通信と英国宮廷の対応

英国宮廷に届いたキーンの書簡は、リスボン大地震に関する公用便の第一報となった。そこでは名誉革命ののち立憲君主制が確立し、ジョージ二世のもとでウォポールの長期政権を経て、ニューキャッスル公爵が宰相の座を占める。神聖ローマ帝国ハノーヴァー選帝侯の子息である国王は、父ジョージ一世の即位に伴って、ドイツからイギリスへ移住したのである。かってオーストリア継承戦争デッティンゲンの戦いでジョージ二世は、連合軍の陣頭指揮に立ち、フランス軍を撃破したが、絵図に残るその英姿もこのときは七四歳の高齢にあった。ロンドンにおける震災第一報とこれを受けたイギリス王権の対応について、月刊誌『ジェントルマンズ・マガジン』は一

七五五年十二月号でつぎのように伝える。

リスボンで今月一日午前九時に発生したきわめて怖るべき地震について確認の通信が届いた。約八時間続いた地震によって壮麗な首都の公共建造物と家屋居館の大半が破壊され、十万人以上が瓦礫の下に生き埋めとなった。こうした地獄絵に加えて首都の数カ所で地底から噴出した火災が、残余の地域を焼き尽し、最端から最端まで、フランスとスペインへの出發港にまで燃え広がった。国王、王妃、王室全員は王宮の倒壊直前に脱出された。スペイン大使と側近の九名は瓦礫のもので死去された（七歳のひとり息子は無事。）また、有能な貿易商数名とともにイギリス領事が同じ運命に陥ったのではないかと憂慮される。なぜなら、宮廷や当局がこの災厄に関する報告をいまだ受け取らないからである。

言語に絶する災害の報告に陛下は強く心を動かされ、当初からの艱苦を慰藉するため、持参可能な金子を携えた通信使を毎日ポルトガル王宮へ派遣された。また、（スペイン国王は）ポルトガルとの国境においてすべての税関で、いかなる負担をも免除し、あらゆる種類の必需品の輸出を許可すること、また臣民も能うかぎりこれに協力することを命じられた。

名誉あるわが下院にこの時点で国王陛下のもとから提出された親書をつぎに掲げる。

本月一日リスボンで地震により惹き起された破滅的な惨事に關し、国王陛下はマドリッド駐在大使から報告を受け取られた。この地震はほぼ全都を焼尽して、数千の住民の命を奪い、生き残った人々を極度の困苦と窮乏に追い込んでゐる。淳良で篤実な盟友、ポルトガル国王に深く共感される国王陛下は、英国臣民の多くが居住し、利害を持つ王都・王国の艱苦に同情され、信仰心と人間愛を有する万人が断

腸の思いを感じる怖るべき震災について、下院が適切に配慮するよう勧告され、かくも切迫した苦難の事態に即応して、可能なかぎり迅速で効果的な救援を送るよう希望された。

これを反対意見なく可決。かくして陛下が至当とされる方式によって、困窮するポルトガル国民に支援を供すること、また凄絶な災厄に沈む国民を救うため必要な経費は明年度の上納金から充当することが、下院によって承認された。①

国王の親書は國務長官フォックスをとおし十一月二六日上下両院に提出されて、キーンの書簡とともに議場で朗読され、ポルトガルへの支援が歓呼して可決された。その翌日宰相ニューキヤツスル公爵のもとで特別會議が開かれ、英国商館に係りある三名の貿易商を招いて、支援の具体的な細目も協議された。

イギリスからの援助に關して、リスボン古文書館にはポルトガル語による史料が保存される。おそらくロンドンに駐在するポルトガル外交官によって執筆されたものであろう。その前半は右記の親書および決議と同じ内容であるが、後半には支援の趣旨とともに、送付する物資の品目が列記される。

受理した悲惨な報告を受けて、国王陛下が深甚なる悲嘆を表明すること、悲運のポルトガル国民のみならず、われらの艱苦する同胞、すなわち当地で在留したり、商易するイギリス国民を全面的に支援すべきこと、

さらに高遠な人類愛と深い憐憫の情によって、国王陛下が適切と判断される規模において、惨憺たる震災による窮状を緩和できるよう、第一次の支援物資を贈ることが、イギリス下院において満場一致で可決された。英国陛下がポルトガル宮廷へ寄贈すべく、リスボン宛てに船積みした支援物資の目録をここに提示する。

ポルトガル通貨	三〇万クルザード
スペイン銀貨	二〇〇デイタ
牛肉	六千バリ
バター	四千デイタ
ビスケット	千袋
米	千二〇〇デイタ
小麦粉	千二〇〇キンタ
小麦	三千三三三モイヨ

①

この時点ではポルトガル駐在大使とリスボン総領事の死亡説も流れ、調査の使節として名門貴族シャルル・タウンゼントの派遣も準備された。地震発生の日後に書かれたカストレスの書簡は、半月後にキーンの手元に届いた。マドリッドからの通報によってイギリス王室は、ようやく十二月初め大使と領事の生存を確認し、使節の

① Arquivo da Torre de Tombo. Papeis varios, tom. II, no. 229, in Sousa, *op.cit.*, p.534.

派遣を中止する。①

ベンジャミン・キーンの手紙 その六

親愛なるカストレス殿

一七五五年十一月二十日 マドリッド

拝啓。十一月四日付および十一日付書簡を、昨日定期便で受け取りました。四日付を託されたオランダ人送達吏は、先週土曜日によくやくこちらへ到着し、災害の惨憺たる報告を一週後に手にしました。このように音信が届かないなかで、入手した他の情報にそなたの名前が見当たらないのを吉兆と考えたこと、またそちらの悲運な罹災の様相、さらには心優しいそなたの人道的な救援活動や被災が暇に浮かべたことを、私の十日付書簡でお察し頂けたと存じます。そなたにどう言えばよいでしょう。こうした災害のとき人々にどう話せばよいでしょう。しかし、同胞がみな奇蹟的に死を免れ、多くは現金さえ持ち出したことを、喜びと驚きを感じています。重要な書類はあまり失われていないとのことですね。そなたに庇護されたオランダ大使の行状には私も義憤を抱きます。プリストウの対処は美事なものです。無事であれば、老練なレヴィウスも然るべき役割を担うでしょう。国王と王妃もそなたの安否や消息について連日下問されています。気の毒なウ

① Paice, *op.cit.*, pp.146-147.

Lodge, *op.cit.*, p.161-162.

ンハオ公爵へもようやく手紙が届き、今次の災厄でアロルナの違反が帳消しになったようです。頂いた情報のなかでカデイスについては部分的に誤報を含み、サ・ルカールの状況はそれとまったく異なります。スペイン全土の被害は過大に伝えられており、リスボンの震災に較べれば、無に近いものです。哀れなウィリアムソンとカントレイにもよろしくお伝えください。危険な地帯に住んでおられたので、おふたりの幸運を私は祝福したい気持です。ご存じと思いますが、スペイン宮廷からポルトガル宮廷へ援助金が送付され、その謝意がこちらに届きました。送達史をながく待たせないよう、ここで筆を置きます。大きな災厄のなかでどうぞ健康と忍耐を保持してください。敬具。

〔追伸〕

そなたが無事であるとの知らせに、すべての旧友が歓喜したことをお伝えします。①

スコットランドの定期刊行物『スコット・マガジン』も、まずポーツマスにおける津波の発生を十一月四日付で知らせ、それと連鎖するヨーロッパ各地、アムステルダム、ハンブルグ、マドリッド、ボルドーなどの異変を以後数多く報じた。同月二五日付の記事はバリ経由によるリスボン第一報であるが、ここではキーンの手紙に依拠するふたつの報道を訳出する。

① Keene, *op.cit.*, pp.435-436.

〔十一月二九日〕ベンジャミン・キーン卿がロンドンの貿易商アーサー・スチュートに宛てたマドリッド発十一月十日付書簡にはつぎのように書かれている。「リスボンではすべてが壊滅しました。王宮、総大司教教会、数々の豪邸が五分足らずで倒壊したのです。残余を大火が焼き尽し、なすすもありません。命からがら脱出した人たちは、田野で宿も覆いも食物もなく、大抵は着替えも持ちません。ベレンにおられ、国王ご一家は無事でした。」

〔十二月二日〕国王陛下がベンジャミン・キーン卿から受理された報告のなかに、ポルトガル駐在全権大使カストロ殿の書簡について言及があった。キーン卿宛十一月四日付書簡によれば、リスボン在住のイギリス人は極度の艱苦に曝されて、住居も破壊され、大半は帰国船を待機している。また、震災の様相に関する全体的で詳細な報告も、カストロ殿は船便に託したとの由。なお、別の書簡によれば、イギリス総領事へイ殿、オランダ大使とその家族、およびオランダ領事は無事であった。①

これらキーンの手紙はおおむねリスボンからスペインへ寄せられた情報によっている。なお、カストレスの安否を確かめるため、彼は教皇大使アシウエリの通信も閲読したと再三述べている。しかし、十一月四日リスボン発送の公用便はついにローマ教皇庁へは届かず、他の通信も十二月十一日ようやく受理されたはずである。ヴァチカン宛四日付公用便の閲読をキーンが許され、それが中継地マドリッドを経たのち、どこかで紛失したので

① *Scots Magazines*, November 1755, Volume XII, p.555.

あろうか。

ベンジャミン・キーンの手紙 その七

親愛なるカストレス殿

一七五五年十一月二三日 マドリッド

拝啓。只今そなたの十八日付手紙を受理し、つぎの送達使に託すべく、感謝の意を籠めて返信を綴ります。お便りが私を安堵させました。十六日に発生した強烈な余震の情報スペイン宮廷で耳にし、憂慮したところでは、そなたの公邸が脆弱な状態にあり、敢えて屋内で就寝されるのを知っている私は、不安が増すばかりでした。地震にはもう慣れたのか、余震について書かれていないので、そなたの身の安全、凄絶な災害では最高の幸せを確信しました。当地の状況と苦勞を把握するのは至難の業ですが、それなりの良識も持たぬのか、オランダ大使ご一族が貴邸の世話にならず、よそに移るとは到底思われません。彼らには私も辛抱できません。無理矢理は許せないので。オランダ領事は数百人に食糧を支給し、その偉業を称讃されました。上司である大使を、なぜそのように世話しないのでしょうか。(中略)

コペンハーゲン様のご不幸は残念でした。不慮のご逝去を衷心から哀悼申し上げます。優雅な生活を始めたばかりのジャスト様とご一家に關しても悲しく思います。惜しまれると奥様についてお書きですが、ほかの女性も同様に感じます。(中略)

親密なポルトガル国王陛下への厚意としてスペイン国王陛下は、弔意を表わす特別大使として、コンデ・デ・アラングア殿を任命されました。駐在されるのは六カ月足らずですが、私と親しいことをそなたに伝えてほしいとの由です。熱烈かつ勤勉なスペイン人である彼は、ご専門の軍事にとりわけ該博な知識を持ち、國政に早晩大いに貢献されるでしょう。彼のご尊父を憶えているかも知れません。ご尊母はなお健在で、ブモヴェル老の従妹に当たります。故人はもはやなにも語りませんが、アラングア殿は前任者に勝るとも、劣らないでしょう。①

震災直後のカストレスと大使館公邸については、そこに避難したドラムランリッグ伯爵の手紙が詳細である。サント・アントオ市門の北、高台のサンタ・マルタ街に位置する公邸は破壊を免れ、即日大使は英国商館の神父ウィリアムソンやオランダ大使一族など、多数の被災者を受け入れた。しかし、建物の内部はなお危険とされ、彼らの大半は広い庭園に野宿した。まもなく病身のドラムランリッグ伯爵はカステルスの配慮で医家スケルトンの診察を受け、夜間の寒気を避けて港灣の船舶に移り、船室で帰国の日を待機する。②

ベンジャミン・キーンの手紙 その八

親愛なるカストレス殿

① Keene, *op.cit.*, pp.436-438.

② (参照) 本稿 第五論文第二節 ドラムランリッグ伯爵とクインズベリー公爵夫妻

一七五五年十一月二四日 マドリッド

拝啓。宮廷で今朝コンデ・デ・アラング殿の歡送をしました。そなた宛てニボンドの嗅ぎ煙草を彼に託します。ささやかな品ですが、自分の食卓で一片を眺めるとき、そなたが喫煙されるように、またとりわけ暖かな寢室におられるように祈ります。怖るべき災厄から天恵によってそなたが守護されることを！つねに親密である友より。敬具。

〔追伸〕

アラング殿に随行する若手將校、ラ・トール侯爵からそなたへの紹介を望まれました。この書簡はスペイン人送達史が届けます。アラング殿はほぼ九日後にリスボンへ着くはずです。①

マドリッドでキーンは震災前にも増して、頻繁にリスボンへ便りを送った。この時期に書かれたカストレス宛書簡は、二カ月で計六通に及ぶが、被災地リスボンからの返信は、残念ながら保存の有無を確認できない。

ベンジャミン・キーンの手簡 その九

親愛なるカストレス殿

一七五五年十二月六日 マドリッド

① Keene, *op. cit.*, p.438.

リスボンの惨状がスペイン宮廷で毎日話題になります。身近なところでは哀れにも二名の婦人が歿したものの、他はみな難を免れましたね。ふたりの伯爵に会われたら、無事を祝すとお伝えください。タヴォラ家の人々はどこにいて、どう逃れたでしょうか。彼らが住むビケノ緑地までは火災も及ばないでしょう。ワインを送ってくれるゴードン殿については、消息を掴めないでしょう。華種商テイラー殿が薬瓶とともに必死に逃げたか否かを知りたく、無事であれば以前に頂いた録金葉をまた所望したいものです。ランギア殿はどうなつたでしょうか。

(商館専属の牧師) ウィリアムソン殿、(医官) カンティイ殿、(大使秘書) ゴードン殿によりしくお伝えください。そなたのご家族についても同様です。寒気が厳しくなりました。お便りをお待ちしつつ、ご自愛を祈ります。

当方に特筆すべきことはありません。すべての知己はお元気で、そなたの無事を喜んでいます。体調を崩した私ですが、どうやら恢復しました。そなたの忠実な従僕より。敬具。②

ベンジャミン・キーンの手簡 その十

親愛なるカストレス殿

一七五五年十二月十六日 マドリッド

② Keene, *op. cit.*, pp.438-439.

拜啓。昨夜十一時か十二時頃フランスを経由したロンドンからの送達史に起されました。そなたへの至急便も携えていて、私も読ませて頂き、スペイン国王にも内容をお伝えするつもりです。十一月十日付で送付した地震の報告が、イギリスに届いた最初の通信との由です。そして十七日付書簡によってそなたの無事という吉報が得られ、タウンシェンド殿のポルトガル派遣が中止されました。なぜ応急の措置が用意されたかを理解頂くために、私の十日付報告からそなたに関する記述を抜粋します。どうぞお読みください。

「閲読できたローマ教皇大使の書簡には（かつてリスボンが存立した地点から）と発信地が書かれております。ナポリ公使の書簡も読ませて頂きましたが、カストレス殿への言及は見当りません。しかし、無事であると私は信じます。著名であり、敬愛される彼が遭難したのに、教皇大使もナポリ公使も（フランス大使）バッシイも言及せぬことはありえないからです。」

さきに述べたとおり、十七日にそなたの四日付書簡が届いて、リスボン壊滅の状況を詳細に知り、在留者の大半がイギリスへ出航したことに安堵しました。そなたに関する対処はやがて直接聞かれることで、ここでは繰り返しません。しかし、十二月三日に至るも、ご自身の書簡はイギリスに届いていないのです。

国王陛下の偉大にして寛仁なご配慮、さらにはイギリス議会の決断に感銘を受けました。悲哀の最中にあってこうした支援を欣然と執行され、心を癒やされるように祈ります。（中略）

今朝宮廷での会談に先立って、ポルトガルへの援助についてスペイン国王ご一家に説明し、今回の博愛的な施策によってイギリスの国王と国民は、これらの方々に深い感銘を与えたようです。フランスはバッシイ自身に約二万五千ルーブルを支援しただけで、ポルトガル宮廷へはクリーム・コヒーを贈る程度のお見舞でした。（スペイン宰相）ウォール殿はそなたから十二月二日付書簡を受け取られ、私に謝意を示されました。

そなたに関して（國務大臣）ヘンリ・フォクスが語ることを、早晚聞かれるでしょう。励ましになると思っています。想像を絶する苦難に曝され、博愛的な救助を続けるそなたに支援がなければ、荣誉も自愛も人道も敬意も地に墜ちるとしか言えません。①

こうした私的な通信のなかでキーンは、ドラムランリッグ伯爵とクインズベリー公爵家について感慨を誌している。我が子の生存を知ったクインズベリー公爵は、バケット定期便の難渋とスペイン経由の帰国も想定し、マドリッド駐在のキーンに書面で助力を懇請した。②これに関するカストレス宛十二月十九日付書簡はかなりの長文に及び、イギリス政界の内情にも言及されるが、ここでは震災に係わる部分のみを訳出する。これがリスボンに送られた年度最後の送信となり、運命の年一七五五年も暮れた。

ベンジャミン・キーンの手紙 その十一

アブラハム・カストレス殿

一七五五年十二月十九日、マドリッド

さきに今月二日付書簡を頂き、いま十一日付書簡を受け取りました。いつまたいかにして脅威が消えるか

① Keene, *op. cit.*, pp. 440-442.

②（参照）本稿 論文第五 第二節 ドラムランリッグ伯爵とクインズベリー公爵夫妻

と、苦慮されるのも当然でしょう。丹誠にも友人たちの安否を知らせて頂きました。ご家族全員とともに奇蹟的に脱出されたタヴォウ侯爵を祝福し、その他生存者の方々にもお喜び申し上げます。震災の全体状況からすれば、在留民の犠牲者が少数であったことは、奇蹟のように思われますが、不幸にも伴侶を亡くされたヘイク殿へどのように弔意を伝えるべきか判りません（中略）。

悲しい手紙のひとつとしてクインズベリー公爵から書簡を頂きましたがその文面を拝読し、いまだ落涙を押え切れません。事情はご存知かと思えます。ご子息の安否が判らぬまま、公爵は生き抜く気力みずからを支え、郊外に避難されました。この若い貴族に關しては、あなたに下した推断を同じように抱きます。同じような事態で同じような方の音信が途絶えたことを、多くの事例は示しています。彼があなたに宛てた手紙には、ふたつの称号が付され、公爵からお聞きしたその理由は、感銘深いものでした（長男の急死という）家庭的な不幸があつて、ドラムラング伯爵家を弟が相続したのです。カントレイ医学博士と一緒にいま彼が船上にいることを、私はクインズベリー公爵にお伝えします。ご子息が怖るべき惨憺たる状況から脱出できたか否かを、明らかに公爵は知らず、マドリッドへ寄る場合には、必要な支援が得られるよう、私に懇請されるのです。若きドラムラング伯爵に知らせてください。マドリッドに寄られる場合には、必要なものすべてを提供するのみならず、私のもとや宮廷においてあらゆる歓待が用意される、と。遺憾にも公爵の書簡は（ホルトガルへの使者）ビュロックの出發より遅く届きました。（中略）

親愛なる友よ！わが身が暖かで快適であるのを感じるとき、こうした安楽を奪われたあなたを思わずにはおれません。また、卓上の高級品を眺めるとき、必需品すら欠くあなたを考えずにはおれません。しかし、怯懦な者を勇気づけるそなたの気概を知って、心を明るくします。震災によっても行路を変えることなく、博愛の精神を不撓不屈に發揮されて、そなたの名声は燦然と輝き、衆生の祝福を受けるでしょう。だが、そうした援助を踏みにじる人たちを、私は忘れも赦しもしないのです。

これを書き続けるのに、一時間以上は耐えられませんが、そなたの悲痛を聞いてわが心も沈み、そなたの堅忍を知ってわが身も引き締まる思いです。気の毒なウイリアム神父によるしくお伝えください。とりわけご老体のメディナ・セリ老公爵夫人はそなたについて心配され、無事であつたのに歡喜されました。アリザ、ベジャール、スルフエリノ。そなたの男友達も数人もそうですが、ヴァルパライソの名だけ挙げておきます。便りが届いたと聞いて不幸なパーカーもやはり喜び、そなたへの書簡を私に託しました。①